

## ■ 教育目的

薬物治療学やその他の医療薬学系統講義で学んだ知識を模擬症例の薬物治療に応用し、より実践的な知識として理解を深める。薬剤師の視点から、正しい患者に、正しい薬を、正しい用法・用量で使用し、治療の有効性と安全性を正しく、かつ継続的に評価するための一連のプロセスを学ぶことを教育の目的とする。

【卒業認定・学位授与の方針：YD-③、YD-④、YD-⑥】

## ■ 学習到達目標

1. 薬物治療を評価・実践するための症例解析プロセスを挙げることができる（知識）
2. 各プロセスにおいて薬剤師の専門的な視点から評価・立案できる（知識、技能、態度）

## ■ 準備学習（予習・復習）

予習：事前に配布される症例に関し予習レポートを作成しておく（40分以上）。

復習：グループレポートと解説を参考に予習レポートの内容を見直す（20分以上）。

## ■ 授業内容

適切な情報源を参照しながら各自予習を行い、当日の演習にて学生間で意見交換をしながら、模擬症例（全5症例）に対して根拠に基づいた望ましい薬物治療法とそのモニタリング計画を立案する。

1・2限連続授業であり、はじめの50分間は講義、10分間の休憩後、110分間の薬物治療評価演習（SGD）を基本構成とする。

SBOコード：E2(11)-①-1、E2(11)-①-2、E2(11)-①-3

## ■ 授業分担者

池上洋二（No.6・11・14）、伊東明彦（No.4・7・8）、越前宏俊（No.4・14・15）、大野恵子（No.1・4・12）、小川竜一（No.9・10・12・15）、佐野和美（No.5・8・12）、庄司優（No.2・4・6）、高橋雅弘（No.13～15）、野澤玲子（No.3・6・8）

## ■ 課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

SGDを通じて予習課題の理解を深め、解説等によりフィードバックを行う。

レポート（10%）、中間試験（40%）、学期末試験（50%）で評価する。

## ■ 教科書

Dynamed（学内専用：my-portからアクセス）

Micromedex DRUGDEX（学内専用：my-portからアクセス）

## ■ 参考書

Pharmacotherapy: A Pathophysiologic Approach, 10th (McGraw-Hill)

Applied Therapeutics: The Clinical Use of Drugs, 10th (LWW)

各種専門学会が作成する診療ガイドライン（最新版）

医薬品添付文書（医薬品医療機器総合機構 [PMDA] ホームページから入手可能）

## ■ その他

中間試験は AB クラス合同で実施する。